



## 「社会に漕ぎ出す子どもたちのために」

日向市立平岩小中学校 校長 佐々木 孝弘



心に残っているCMがあります。地球の調査をしている宇宙人ジョーンズが、「この惑星の住人の人生は、一直線とは限らない。ただ、この惑星には裏方の喜びもある。」と報告します。画面には、現在、ボール磨き等の裏方の仕事をしている元プロ野球巨人軍で活躍した入来選手に、若手選手が初勝利のボールを手渡すシーンが映っていました。

これから子どもたちが漕ぎ出す社会は、人口減少や人工知能の発達などにより、これまで以上に急激に変化すると言われています。そんな行く先不透明な社会だからこそ、子どもたちには、様々な仕事において、本気で人のために働く大人の姿を苦勞や喜びとともに伝え、働くとはどういうことか、将来どんな仕事に就きたいのか等について真剣に考える機会をつくってあげたいと思います。

## 「基礎的・汎用的能力の育成へのご支援を願います」

日向市立日知屋小学校 校長 田辺 弘美



日向市に着任させていただき、2か月近くとなる5月22日に「よのなか先生」方との懇親会に出席させていただきました。200名近くの「よのなか先生」がご登録いただいているということに感激いたしました。学校教育の全教科、領域における指導の質の向上のためにお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

全教職員一丸となって、分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる基礎的・汎用的能力を十分身につけさせることができるように日々の指導の充実を目指します。

## 「あの頃の感じた自分の想いを」

吉原建設(株)日向支店 支店長 竹下 和秀



小学校での恩師である二見順雄先生よりお誘いがあり参加いたしました。昭和50年頃、担任だった先生は授業内容や行事・生徒達の何気ない様を綴ったB4ガリ版の学級通信というプリントを毎日発行されておられました。誕生日には先生の手書きのイラスト入りで誕生者の全面特集となり、私の場合はスーツを着て受話器を持って仕事している成人後の姿を描いてくださり、強烈に印象深かったのを覚えております。

私は「よのなか教室」を通してこれまでの経験や仕事を通して話すだけでなく、実際に働いている姿のイメージを持たせることが大切だと思っています。まさに私があの頃見た学級通信の誕生日イラストのようなイメージです。

私には絵心は全く無くつたない話力だけで、子ども達にどこまで感じてもらえるか楽しく思い悩む日は続きそうです。

## 「よのなか教室」に参加して

夕刊デイリー新聞社・日向支社 編集部記者 江原 知子



これまで数回ではありますが、「よのなか教室」に講師として参加させていただきました。新聞記者という仕事について話すとき、私はいつも「人との出会いが何より楽しく、その出会いから自分も元気をもらっている」。そして、子供たちには「何の仕事をするのかではなく、どういう仕事だったら自分らしく働けるのか、きらきら輝けるのか、そう考えてほしい」と伝えています。

私自身、大学卒業後、思わぬ壁にぶつかり、立ち止まり、再就職し、今に至っています。

現実はまだなかなかシビアです。そんなときは、またやり直せばいい。あせらず前を向けばいい。そんなことも伝えられたらと思っています。

社会人として、まだまだ未熟な私が、子どもたちに伝えられることは本当にわずかです。背伸びをせず、今の私なりの思いを素直に言葉にしようと心掛けています。ただ、実際は、子供たちを目の前に迷走してしまったり、思わぬ質問にあたふたしたりと、力不足で申し訳ない限りです。こんな私ですが、これからも出来る範囲で協力させてもらえたらと思っています。

